

第19号
2014年9月



◇新潟まち遺産の会会報 第19号
2014年9月20日発行
◇新潟まち遺産の会 (代表 大倉 宏)
〒951-8066
新潟市中央区東堀前通1番町353
E-mail: chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
TEL 025-228-2536 / FAX 025-225-7203
<http://machi-isan.sakura.ne.jp/>

近代建築の価値を考えるセミナーを開講

7月20日(日)、砂丘館でセミナー「風土と建築の存在—モダニズム建築の抱える課題、保存と活用」を開講しました。講師には、地域における近代建築の重要性とその保存活用を訴えてきた建築家の兼松紘一郎氏をお迎えしました。

このセミナーは、西大畑町の旧會津八一記念館の建物がその役割を終えたとして取り壊しの計画があることを知り、建物の価値が理解されていないことに危機感を持って急遽当会が主催したものです。

建物の価値やセミナー開催の経緯は、2面に大倉代表がまとめていますので、そちらをご覧ください。

準備期間が充分でなかったにもかかわらず、当日会場の砂丘館の蔵には32名の参加者が集まりました。

兼松氏は、画一的な白い箱と思われがちな20世紀の近代建築が、じつは地域の風土や暮らしの歴史と呼応して造られており、多様性に富んでいることを、代表的な例を挙げて説明されました。つづいて沖縄における近代建築の保存と活用の実例を紹介し、新潟にも近代建築が多く残されているが課題も多いことを指摘

されました。

質疑応答は、建物に関わる方々が次々と具体的な質問や現状報告がなされ、終了後も兼松氏を囲んで話が続けました。

市民に建物の価値や魅力を伝えるためには地道な努力が必要です。そして建物はいったん取り壊されれば取り返しがつきません。当会の活動は時間との競争でもあることが痛感されたセミナーでした。

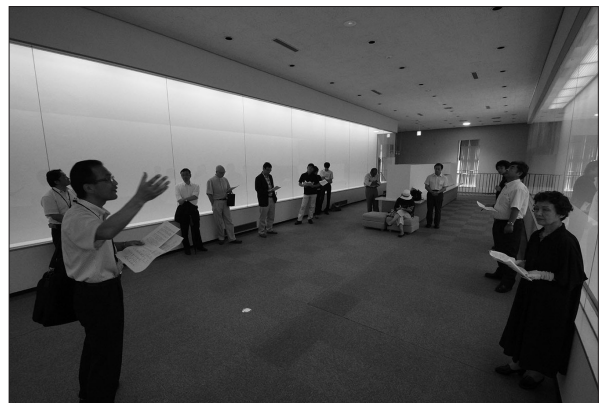
兼松氏のご自身のブログでもセミナーと記念館のことを書いておられます。(http://blog.goo.ne.jp/penkou/e/64abd8e6c6ec9d12b1facbca2a2442) (千早和子)

◇◇◇ 緊急に見学会を開催 ◇◇◇

9月5日には、当会はじめ市内4団体を対象に特別見学会が開かれました。平日の急な開催にもかかわらず、36名が訪れました。アンケートに回答して下さった方々の意見は、拙速な取り壊しに疑問を呈するものでした。今早急に今後の対応を検討しています。



講演中の兼松紘一郎氏。



2階の展示室で市職員の説明を聞く参加者。

會津八一記念館—新潟の風土を取り込んだ建築

◇記念館はモダニズム建築

新潟駅から萬代橋を通り日本海に至る道の終点近く、砂丘上の砂防林の際に位置する新潟市會津八一記念館は1975（昭和50）年に開館し、2014（平成26）年5月25日まで開かれた「ありがとう39年 収蔵品で綴る物語」展を最後に、萬代橋東詰に立つ新潟日報社屋（メディアシップ）への記念館移転のため、閉館しました。

記念館の移転の是非を問う声も、個人的には聞く機会がありましたが、新潟まち遺産の会は主に歴史的な建築の保存活用に取り組む市民団体であり、そのことに関わる立場にはありません。しかし移転後に建物を取り壊され、會津八一を記念する公園とする新潟市の案に接し、長谷川洋一設計のモダニズム建築それ自体の価値が、全く考慮されていないことに対する疑問の声が世話人会でも聞かれるようになりました。

新潟まち遺産の会の前身は「新潟の町屋を生かす会」という明治の町屋の保存運動でした。10年前の発足以来、新潟の旧市街や西大畑のお屋敷街、近年は古町8、9番町の裏通りに残る花街（かがい）の町並みに関心を寄せ、活動を行なってきました。モダニズムの建築の保存活動は、会としては未経験です。

しかし私個人の経験を書けば、町屋の保存活動の前に昭和初期の様式主義（西欧の伝統的装飾を持つ）建築である第四銀行住吉町支店の現地保存の運動に関わり、さらにそれ以前に新潟市芸術文化会館の建設計画を機に決められた新潟市公会堂の取り壊しに反対したことがあります。新潟市公会堂は1938（昭和13）年開館のモダニズム建築でした。モダニズム建築は、私個人にとって建築保存の活動に関わる原点です。

◇設計者との奇縁

新潟市公会堂の設計者は長谷川龍雄。戦前新潟で多くの公共的建築を設計した、新潟市の建築史上の重要人物で、長岡造形大学の平山育男さんが強い関心を持って調べてられました。そのご子息で、新潟で設計活動を行なっている方があると聞き、今から20年近くも前、新潟市公会堂の話聞きに、西大畑のご自宅をお訪ねしたことがあります。しかし、その方は人にあまり会われない風変わりな方で、いくら玄関口で声を上げても出てこられませんでした。電話にもなぜか出られませんでした。平山さんも会ってはおられないらしい。ご近所づきあいあまりされていないようだと聞きました。

その謎の人である長谷川洋一氏が、なんと当の會津

記念館の設計者であることを知ったのは、取り壊しの計画を知らされて後のことでした。不思議な偶然に驚きました。

開館2年目の會津八一記念館館報に、氏が「會津記念館の建築計画について」という文を寄せていたことをその後教えられました。そこには「既存の樹木をできるだけ伐採せず建物を配置することから始まり、且つ四季を通じて変化する広大な松林側の眺望を如何に多く建物内部に取り入れるか」配慮したことや、外観も記念館にふさわしい力強さ、格調の高さ、敷地周辺の自然環境との調和を心がけ、會津先生の作品を「永久保存する」建物とするために厳しい新潟の気候にも長く耐えられるよう、腐食する金属等の使用を極力避け「コンクリート打後の乾燥養生も十分期間」といったこと等が縷々しるされていました。

◇セミナー開催へ

長くモダニズム建築の保存活動に関わってこられた兼松紘一郎さんに新潟へお越しいただき、記念館の外観を見ていただきました（内部の見学も申し入れたが、当日は館の移転で職員が多忙ということで断られました）。そして設計者の意図が随所に生かされた、残すべき価値を持つ建築ではないかという感想もいただきました。晴れた夏の夕刻で、記念館の白壁に傍らに立つ松の木の影が映っていました。その光景が兼松さんに感銘を与えたようでした。

モダニズム建築は国際様式とも呼ばれ、1920年代以降に世界中を席捲し、その余波は現在に至ります。しかし兼松さんがセミナーで紹介された沖縄の事例は、地球全体に画一的形式を普及させたとされるモダニズムも、実際にはその土地土地の風土を取り込みながら、具体的な建築物になってきたことを教えてくれました。長谷川洋一設計の會津記念館もまた、新潟という地域に生きた建築家が、新潟ならではの風土を取り込んだ建築の貴重な一例であるでしょう。

セミナー開催に先立ち、この春、新潟まち遺産の会は、新潟県建築士会、日本建築家協会新潟地域会、郷土の文化に親しむ会と連名で、記念館移転後の建物の見学会と、記念館の建つ土地の今後の在り方について、多くの立場からの意見を聞く懇談会の開催を新潟市に要望しました。

新潟のすぐれたモダニズム建築である會津記念館の建物が、今後も生かされていく道がないか、会としても真剣に考えていきたいと思えます。（大倉宏）

まちなみネットワーク上越大会に参加

6月7日(土)に「にいがた美しいまちなみフォーラム2014」が上越市直江津で挙行されました。これは「第9回新潟県まちなみネットワーク上越大会」と同時開催されたもので、これまで、新潟県と新潟県まちなみネットワークとが、それぞれ別個に開催していたものを、このたび共同で開くことになったものです。

会場のホテルセンチュリーイカヤでは、「プラタモリ」を企画した(株)NHKエンタープライズ、エグゼクティブ・プロデューサーの尾関憲一氏による講演「“まちあるき番組”制作で見てきた都市の秘密」や、地元団体である「ライオン像の建物をまちづくりに活かす会」の磯田一裕氏も参加してのパネルディスカッション「まちあるきを通じて、まちの魅力を再発見しよう」などが実施されました。フォーラムには約100名、事前のネットワーク総会には約20名の参加がありました。また、翌日にはまち歩きも開催されました。

今回は、まち歩きがメインテーマでしたが、「ブラニイガタ」を企画したまちづくり学校さんとも、あらためて交流でき、これがきっかけで9月28日(日)開催予定の古町花街イベントでは、コラボ企画「ブラニイガタ番外編」を実施する運びとなりました。

来年度の開催地は三条が候補に挙がっています。ぜひ、ご参加ください。(岡崎篤行)

総会を開催

6月22日(日)、旧斎藤家別邸において平成26(2014)年度総会を開催しました。今年度は去年までのようなイベントの同時開催ではなく、同日開催されていた日本庭園学会全国大会シンポジウムに協力し、総会后シンポジウムの会場のイタリア軒に移動しました。シンポジウムでは大倉代表がパネルディスカッションに参加しました。(千早和子)



まちあるき「沢海まるごと博物館」

4月20日(日)に、江南区沢海のまちあるきマップが完成したことを記念して、当会主催で沢海まちあるき「沢海まるごと博物館」を行ないました。伊藤家の北方文化博物館を訪れる人が、沢海の町中へ足を伸ばすことはほとんどなく、町の歴史も知られていませんでしたが、マップはその沢海の歴史を紹介しています。

マップにはよると、沢海は信濃川と阿賀野川の分岐点に位置して舟運の便がよく、肥沃な土壌にも恵まれ、また戦前は県内有数の繭の生産地でもあったそうです。

まちあるきはふたつのグループに分かれ、まちあるきガイドの案内で行ないました。飛び入り参加者もあって用意した資料が足りなくなるという一幕もありましたが、ご夫婦で参加された方が一組を譲ってくださいなどして無事出発しました。

筆者が参加したグループは、北方文化博物館から南に向かい、小阿賀野川を望む土手沿いに阿賀野川の方へ出て、そこから町中へ入っていきました。沢海が川とともにあったことが実感されるコースです。町中はせまい路地に養蚕をやっていたという建物など戦前の建物が散見され、時間があればもっとゆっくり回りたいところでした。

オプションツアーの北方文化博物館見学は、博物館のガイドの方の案内で、普段は未公開の、数寄の極みというのでしょうか、三角形の茶室「三楽亭」や高僧が宿泊した際に使った湯殿なども見学しました。

今回のまちあるきは世話人に沢海のまちあるきガイドがいることから企画されたものです。これからも各地のまちあるきイベントをやっていききたいと思います。(千早和子)

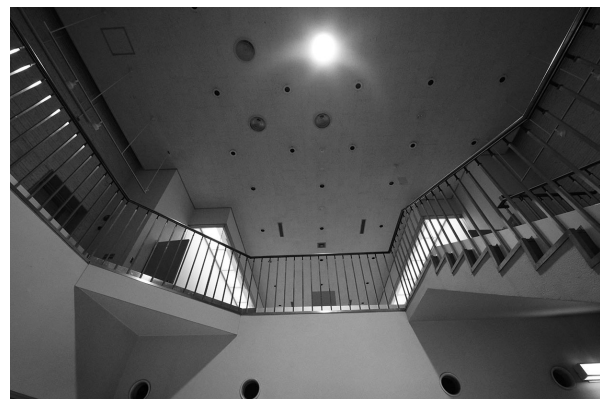


(上) 見事な桜が満開の會津八一記念館。

(左) 4月には會津八一記念館でお茶会が開催され多くの来訪者を集めました。ふだんは入れない奥の館長室は眺めのいい部屋でした。

平成 25 年度事業報告

- 世話人会 12 回開催
- シンポジウム・講演会
 - 新潟まち遺産セミナー 2013：
第 5 回 柳都新潟・古町花街イベント
女子だって花街 part2
 - 堀割再生シンポジウム
「シモマチの未来は？フルマチの未来は？」
- まちあるきの開催
 - ぶらり歩く夕暮れの古町花街
- イベント
 - 体験！古町芸妓とお座敷遊び」
 - 連続講座：初心者のための〈ふるまち新潟をどり〉
共催：砂丘館
- マップの作成
 - 湊町新潟 下町たてもものマップ 制作準備
- 会報誌の発行 18 号 (2 月 11 日発行)
- 要望と提案
 - 「峰村家住宅・土蔵・庭園の移転再建築による
保存にむけて」
9 月 19 日 (木) に要望書を市長に提出
- 他市他団体への協力と参加
 - 金澤町家研究会通常総会にて当会活動について講演
新潟国際情報大学オープンカレッジ講座
「歴史的建造物の現在 新潟の町屋・
お屋敷・花街探訪」講師担当
 - 「新潟県まちなみネットワーク赤泊大会」に参加
日本庭園協会新潟県支部による
峰村家住宅庭園実測調査 協力参加
- 後援事業
 - 堀割再生シンポジウム「シモマチの未来は？
フルマチの未来は？」に参加
新潟県建築士会によるヘリテージマネージャー
養成講座実施準備協力
- 調査
 - 中央区明石 峰村家住宅の実測調査
- 見学会
 - 中央区明石 峰村家見学会の開催 (2 回)
* 1 回は長嶺地域コミュニティー協議会と共催
- 峰村家住宅の解体時調査記録 (11 月)
 - * 11 月 11 日 (月) BSN 新潟放送の記録「N スタ」
にて OA



會津八一記念館ロビーから 2 階の展示室を見上げる。

町屋の記憶を未来に繋ぐ仕組み

世話人リレーエッセイ

新しく世話人になりました新潟大学の松井と申します。6 月までは京都の立命館大学で働いていました。

京都といえば京町家。昨今の京町家ブームの影響もあり、京町家を保全するための様々な仕組みが作られています。

その一つに、京都市景観・まちづくりセンターの「京町家カルテ」があります。名前が示す通り、京町家の診断書 (履歴や間取り、状態など) を作る事業で、月に 3～5 軒程度の京町家が調査され、カルテが作成されています。この事業を通して京町家の情報を集約し、専門家を育成し、そして何よりも、所有者に京町家の価値を理解してもらおうとしているわけです。

カルテ作成には、申請手数料 5 千円と作成料 3 万円が必要になります。高額と思われるかもしれませんが、これが専門家の日当やセンターの活動資金になるため、事業継続に必要なお金なのです。それでも多くの所有者がカルテ作成を求める背景には、カルテを提出することで銀行からの借入金利が 1.8% 低くなるという仕組みがあります。

要するに、京町家を活かそうと考えている人にとっては、カルテ作成の初期費用はかかっても、作ったほうが得だというインセンティブがあるのです。こうやって、いまでも多くの京町家の記憶がカルテにまとめられています。

さて、新潟にも多くの町屋があります。その多くが空家化していく現状を鑑みると、町屋の活用を誘導する仕組みを作ることが必要になると思います。

京都の真似をすれば、新潟の町屋も活用されるといった単純な話ではないと思いますが、参考にしながら金銭的な障害を緩和し、個々の町屋が持つ記憶を未来に繋いでいけるような仕組みを作りたい。新潟に引越してきて、そんなことを考えています。(松井大輔)

□□□□□□□□□□ 編集後記 □□□□□□□□□□

町並みの歴史を形づくるのは町屋や和風建築だけではありません。近代建築もまた、独自の歴史と相貌で町並みの表情を作り出しています。旧會津八一記念館はシンプルで飽きのこない建物です。松林と住宅地に隣接し、無理なく風景の中に溶け込んでいます。空っぽになってみて、フレキシブルで可能性に富んだ建物であることに気づかされます。今回は、できるだけ建物の写真を掲載しました。(千早和子)